

群 教 七	G02 - 03
	平29.265集
	社会 - 中

歴史的分野において既習事項を関連付けながら、 自分の考えを深めることができる生徒の育成

—— 単元を貫く学習課題に関連した多面的な課題設定と、
「思考集約シート」の活用を通して——

特別研修員 久保野 雅之

I 研究テーマ設定の理由

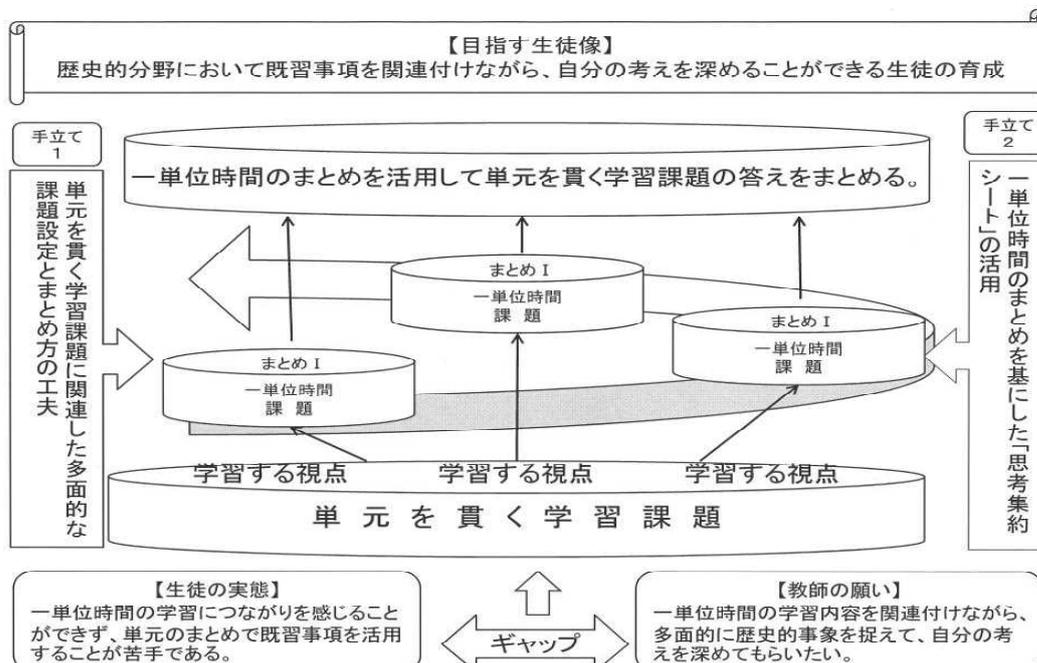
平成20年に改訂された学習指導要領総則で、「振り返ったりする学習活動の重視」が新たに追加された。それを踏まえて、群馬県教育委員会では、平成29年度学校教育の指針（解説）の「指導の重点」の中で、「学習したことを目標（めあて・ねらい）に沿って振り返らせることで、何を学んだのかを自覚させること」を授業づくりの共通の取組として挙げている。また、新学習指導要領では、「各時代を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する学習」が更に重視され、中項目ごとにこれらを示し、まとめとしての学習を行うことを一層求めている。このことから、まとめとしての学習を行う意義は、単なる知識の振り返りではなく、社会的事象を多面的・多角的に捉え、考えを深めることにあると考える。

所属校の生徒の多くは、一単位時間ごとの学習では、その時間の課題をつかみ、解決に向けて追究し、課題に対するまとめを行うことができる。しかし、単元を貫く学習課題になると、これまでに学習してきたことを生かしてまとめられる生徒は少ない。この学習上の課題を解決するためには、一単位時間ごとの学習において、単元を貫く学習課題と関連性を持った課題をつかみ、まとめていくことが大切である。そして、一単位時間ごとのまとめ（既習事項）を関連付けて単元を貫く学習課題の答えを導き出すことができるワークシートを活用することが有効であると考えた。

以上のことから、単元を貫く学習課題に関連した多面的な課題を設定し、既習事項を関連付けて考えることができる「思考集約シート」を活用すれば、社会的事象を多面的・多角的に捉え、自分の考えを深めることができる生徒を育成できると考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

一単位時間ごとのまとめを関連付けて、考えを深めるために、次のような手立ての実践を試みた。

手立て1 単元を貫く学習課題に関連した多面的な課題設定とまとめ方の工夫

手立て2 一単位時間のまとめを基にした「思考集約シート」の活用

手立て1では、まず課題把握の場面で、生徒は資料の比較などから感じた疑問点を基に、単元を貫く学習課題をつかむ。次に、単元を貫く学習課題に対する最初の予想を立てた後、資料集から課題解決に関係しそうな社会的事象を探し、それらを整理しながら学習する視点をつかむ(図1の①～⑦に記入)。課題追究の場面では、学習する視点を踏まえて、教師とともに一単位時間の課題をつかみ、学習後、そのまとめを「思考集約シート」に記入していく。これをまとめIとする(図1の手順1)。このような手順を踏むことで、まとめIは単元を貫く学習課題に関連したものになる。また、教師がどの程度まとめるかを意図的に計画しておくことで、単元の最後の場面で、まとめIを活用しやすくなる考えた。

以下に、手立て2の「思考集約シート」の活用方法を示す(図1)。

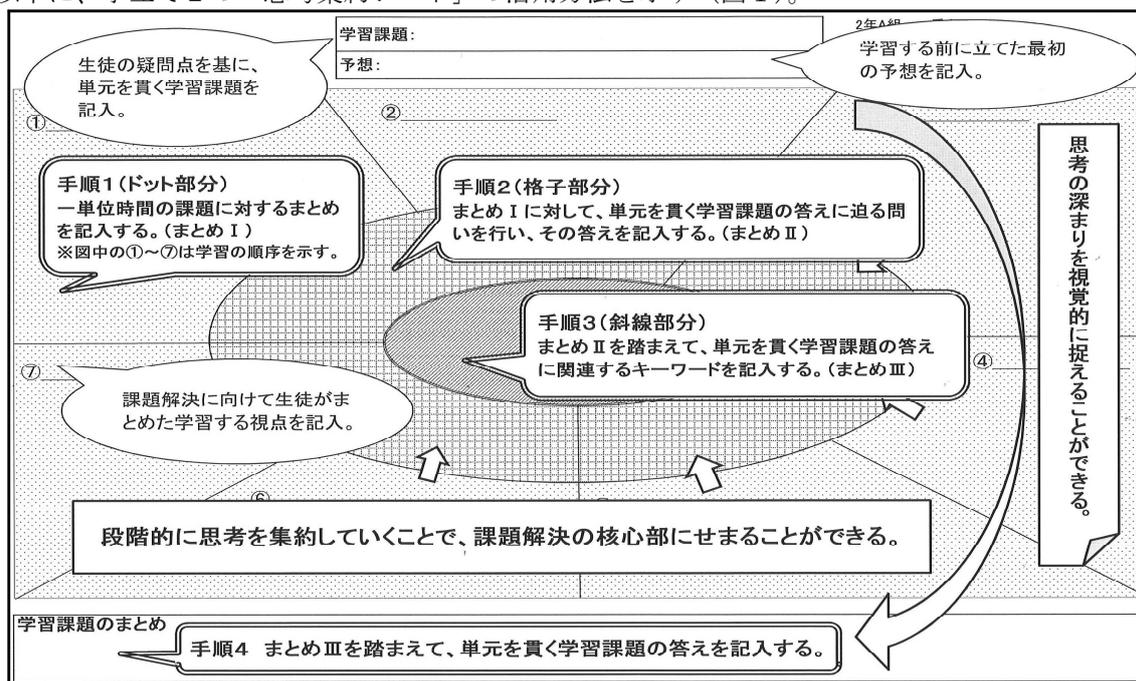


図1 「思考集約シート」の活用方法

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 単元を貫く学習課題に関連した課題を設定したため、一単位時間のまとめを行うごとに、単元を貫く学習課題に立ち返ることができ、学習のつながりを感じながら取り組むことができた。
- 「思考集約シート」は、一単位時間のまとめを基に段階的に思考を集約していく方法をとるので、一単位時間のまとめ(既習事項)を関連付けて単元のまとめを行うことができた。また、単元を貫く学習課題に対する最初の予想と、学習を終えた後のまとめが一目で分かるので、生徒は考えが深まったことを実感することができた。
- 「思考集約シート」の中心部に書いた言葉に対して、そのような言葉にした理由を記述させることによって、知識が再構成され、生徒の理解が深まった。

2 課題

- 思考の集約がうまくいかない生徒が数名見受けられた。原因として、授業者の中でキーワードや単元を貫く学習課題の答えが曖昧だったことが挙げられる。このことから、授業者は単元を貫く学習課題に関連するキーワードや答えを明確に設定してから、単元構想を行う必要がある。

実践例

1 単元名 「明治維新」(第2学年・2学期)

2 本単元について

本単元は、中学校学習指導要領社会科歴史的分野の「(5)近代の日本と世界」の中項目「イ」「ウ」を基に構成されており、富国強兵、殖産興業政策、文明開化などを通して、近代国家の基礎が整えられたことを理解することをねらいとしている。本単元のねらいを達成するためには、明治の三大改革をはじめとする様々な改革や外交政策を取り扱ったり、自由民権運動をはじめとする民衆の動きや考え方の変化を捉えたりすることが必要である。本単元は、「近代国家」というキーワードを中心に一単位時間の学習内容を再構成し、指導計画を構想することによって、一単位時間のまとめを関連付けながら学習できる単元であると考えられる。

以上のような考えから、本単元では次のような指導計画を構想し実践した。

目標	富国強兵、殖産興業政策、文明開化などを通して、近代国家の基礎が整えられたことを理解する。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	明治維新の経緯や改革の内容、人々の生活の変化に対して関心を高め、意欲的に追究している。
	思考・判断・表現	新政府の諸改革の特色や自由民権運動から憲法制定までの動きを、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。
	技能	人々の生活が大きく変化したことを江戸時代と比較してまとめたり、自由民権運動や憲法制定について、適切な資料から読み取ったりしている。
	知識・理解	明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことや、立憲制国家が成立して日本の国際的地位が向上したことを理解し、その知識を身に付けている。
過程	時間	○学習課題 □まとめ ・主な学習活動
課題 把握	第1時	・単元を貫く学習課題「なぜ新政府は不平等条約の改正を行うことができたのか」をつかみ、学習計画を立てる。
課題 追 究	第2時	○新政府はどのような改革を行ったのか。 □五箇条のご誓文を制定したり、版籍奉還や廃藩置県を行った。 ・新政府の改革について、江戸時代と比較しながら調べる。
	第3時	○三大改革によってどのような変化があったのか。 □学制によって学力を高め、徴兵令によって兵力を高め、地租改正によって税収を上げた。 ・どの政策が一番有効であったかを考える。
	第4時	○明治になって人々の生活はどのように変化したのか。 □今までにない欧米諸国の技術や文化、考え方が取り入れられた。 ・資料から、明治時代に新しく生活に入ってきたものと江戸時代からあるものを分類する。
	第5時	○新政府はどのように外交を進めたのか。 □国力の充実を最優先にしつつも、中国とは対等な関係を築き、朝鮮とは優位な関係を築いた。 ・資料から使節団が感じたことを考える。
	第6時	○日本の領土はどのように変化したのか。 □蝦夷地と琉球藩を日本に編入し、領地を明確にした。 ・国境画定を表す年表と地図を比較することを通して理解を深める。
	第7時	○新政府の改革に対して、人々はどのような対応をしたのか。 □自由民権運動が高まり、国会開設を要求した。 ・板垣退助と西郷隆盛の藩閥政治に対する対応の違いを考える。
	第8時	○新政府は国会開設に向けてどのような準備を行ったのか。 □内閣制度を作ったり、憲法を作成したりした。 ・大日本帝国憲法を読み取り、特色をつかむ。
	まとめ	第9時(本時)

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全9時間計画の第9時に当たる。ここでは、単元を貫く学習課題「なぜ新政府は不平等条約の改正を行うことができたのか」に対し、「思考集約シート」に蓄積した第2時から第8時のまとめIを生かしながら、関連するキーワードを導きだし、答えをまとめていく。

手立て1

単元を貫く学習課題「なぜ新政府は不平等条約の改正を行うことができたのか」に関連した多面的な課題に対して、一単位時間ごとにまとめをする(指導計画参照)。

手立て2

以下の手順で「思考集約シート」（2頁図1）を活用する。

- ① 第2時から第8時で、一単位時間ごとのまとめを「思考集約シート」の外枠に記入する（まとめⅠ）。
- ② まとめⅠを踏まえて、どのような国（世の中）になったのかを考えて記入する（まとめⅡ）。
- ③ まとめⅡを踏まえて明治政府が目指した国をグループで考えて記入する（まとめⅢ）。
- ④ まとめⅢを踏まえて単元を貫く学習課題の答えを記入する。

4 授業の実際

(1) 単元を貫く学習課題に関連した多面的な課題設定とまとめ方の工夫

本単元の第1時では、まず新政府の願いであった不平等条約改正が、1871年の岩倉使節団の交渉では失敗し、1894年の陸奥宗光の交渉で一部条約が改正されたという事実を押さえた。その事実から生徒は「なぜ1871年の時は不平等条約の改正ができなくて、1894年には改正できたのか」という疑問を持った。そして、その疑問を基に「なぜ新政府は不平等条約の改正ができたのか」という単元を貫く学習課題をつかみ、最初の予想を立てた。「明治に力を持った人が現れたから」「外国と仲良くなったから」「準備が整ったから」など、生徒は様々な予想を立てた。次に、資料集から課題解決に関係しそうな社会的事象（廃藩置県、自由民権運動、大日本帝国憲法など）を付箋に書き出し、それらをグループ（制度改革、民衆の動き、外交政策など）に分けた。

第2時から第8時では、第1時で捉えたグループを学習する視点とし、生徒は学習する視点を踏まえながら一単位時間の課題をつかんだ。一単位時間のまとめは、第9時で活用するため、生徒の意見の生かしながら、同じ文言で「思考集約シート」に記入させた。

(2) 一単位時間のまとめを基にした「思考集約シート」の活用

第9時では、まず「思考集約シート」のまとめⅠを復習し、本時の課題として単元を貫く学習課題の答えを明らかにすることを確認した。単元の第1時はおよそ1ヶ月前に学習しているので、生徒は随分と忘れていた様子であったが、この復習を通して活用すべき知識を再び押さえることができた。次に蓄積してきたまとめⅠに対して、「その結果、どのような世の中（国）になったか」と問い掛け、生徒は「思考集約シート」にまとめⅡを記入した。はじめはなかなか記入できなかったが、自主的にノートを振り返ったり、教科書で確認したりする生徒が現れ、知識を活用して考えようとする姿を見ることができた。その後、記述できなかった生徒や記述があいまいな生徒がいたため、グループになり記述内容の確認を行った。次に、「明治政府が目指した国はどのような国（世の中）だったのか」と問い掛け、生徒はグループで話し合った（まとめⅢに当たる部分）。最後に、「なぜそのような国とまとめたのか」とさらに問い掛け、考えた理由も併せて示させた（図2）。すると生徒は、「思考集約シート」のまとめⅠを指さしながら「“天皇中心”というのはこの辺りから考えて、“外国に負けない”というのはこの辺りから考えました」と説明していた。その後、各グループの考えを全体で共有し、生徒は単元を貫く学習課題の答えを記入した。その後の発表では、単元の最初に立てた予想と学習後のまとめを両方を発表することを通して、学習の成果を確認した。

- ・天皇中心で外国に負けない国を目指した。

考えた理由：技術を進歩させたり国力を強化させたりしていたから。

- ・他国に劣らない（兵力、政治力、財政力などの基本で海外に負けない）国を目指した。

考えた理由：基本を整えたから。

- ・天皇中心の立憲制国家を目指した。

考えた理由：版籍奉還や廃藩置県を行い、天皇中心の憲法を作ったから。

図2 グループで行ったまとめⅢの一例

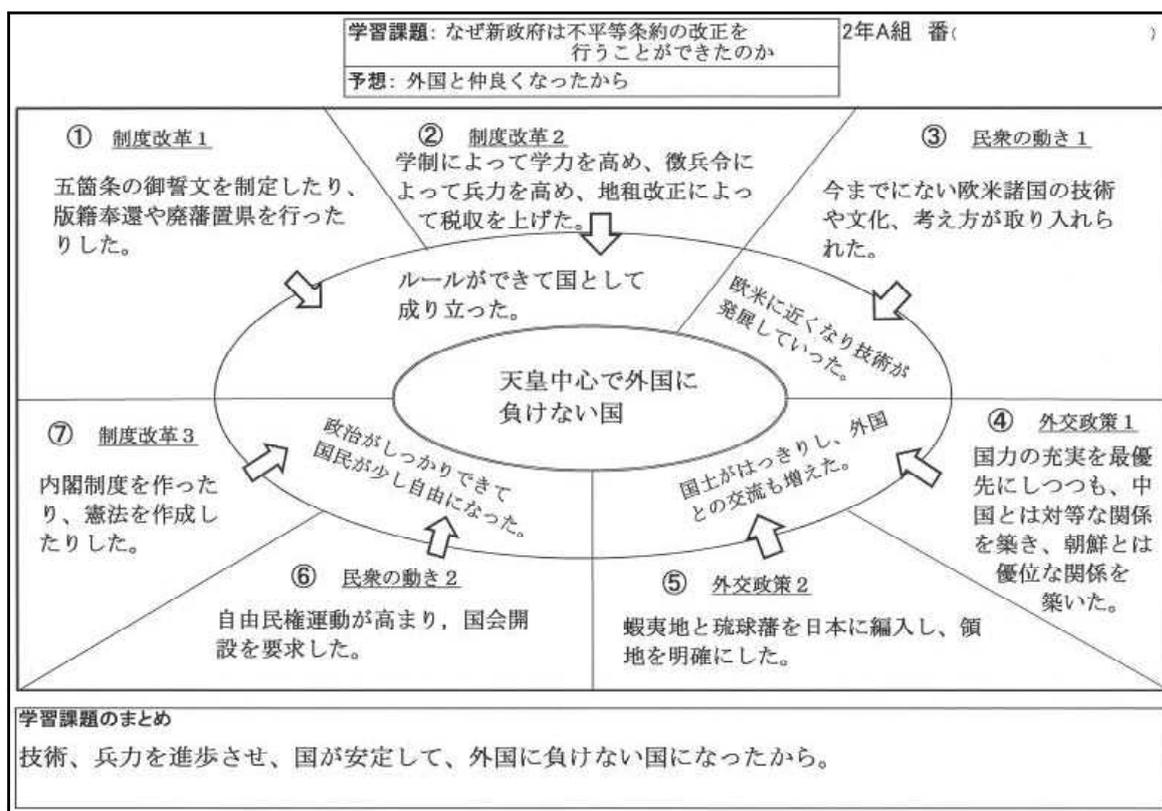


図3 生徒がまとめた「思考集約シート」の一例

5 考察

まずはじめに、生徒の疑問を基に単元を貫く学習課題を設定し、学習する視点を立てた。次に、それを踏まえて一単位時間ごとの課題を設定したため、生徒は「この時間は、単元を貫く学習課題を解決するために、この側面について学習する」という意識を持つことができた。その結果、生徒は一単位時間の学習のまとめをするごとに、「このようなことが行われたから条約改正ができたのではないかと、常に単元を貫く学習課題と一単位時間ごとの学習を関連付けることができた。

また、第9時において単元を貫く学習課題の答えに迫る問い掛けを行ったり、キーワードを考えたりすることによって、生徒は一単位時間ごとのまとめを関連付けて段階的に思考を集約し、新政府が目指す近代国家の輪郭をつかむことができた。また、そう考えた根拠を説明する活動を通して、一単位時間ごとのまとめに立ち返り、「このような国を目指していたから、こういった政策を行ったのだ」と知識の再構成を行うことができた。

思考の深まりについては、図3の「予想」と「学習課題のまとめ」にあるように、「外国と仲良くなったから」という外交面のみの一面的な考えから、「技術、兵力を進歩させ、国が安定して、外国に負けない国になったから」という多面的な捉え方になっている。さらに詳しく分析すると、①～⑦のまとめⅠを、まとめⅡでは「ルールができて」「技術が発展して」「国土がはっきりし」「政治がしっかりできて」と4つに集約し、それらをさらに集約してまとめⅢとして、「天皇中心」「外国に負けない」というキーワードをつかんでいる。そして学習課題のまとめでは「安定」という言葉を導き出している。学習指導要領にあるように、本単元のねらいは近代国家の基礎が整えられたことを理解することにある。国が安定してきたということは、基礎が整えられたということである。つまり、生徒は「近代国家の基礎が整えられた」ということについて、表面上の知識として覚えるのではなく、7時間分の学習を関連付け、段階的に思考を集約することを通して理解したと捉えることができる。

以上のことから、単元を貫く学習課題に関連した多面的な課題を設定し、「思考集約シート」を活用することは、歴史的分野において、既習事項を関連付けながら自分の考えを深めることができる生徒を育成する上で有効であったと言える。